

出会い系ざんまい！

[出会い系サイトのすべてが分かる]

出会い系サイトの歴史

出会い系サイトの種類

出会い系サイトあれこれ

出会い系サイトと僕

ちょっと変わった私的体験談

「出会い系ざんまい！」管理事務局

出会い系ざんまい！

「出会い系ざんまい！」 管理事務局

目次

はじめに

Chapter 1. 出会い系サイトの歴史

出会い系サイト以前（～1990年代前半）

出会い系サイト誕生（1990年代後半）

携帯電話の普及（2000年代前半）

SNS時代（2000年代後半）

スマートフォンの登場（2010年代）

Chapter 2. 出会い系サイトの種類

野良サイト

無料サイト

有料サイト

特殊なサイト

SNS

アプリ

Chapter 3. 出会い系サイトあれこれ

「出会い系サイト規制法」とは何か

”サクラ”は本当に存在するのか？

出会い系サイト以外の出会い系サービス

こんなサイトでも出会えます

出会い系サイトを運営するには

Chapter 4. 出会い系サイトと僕

黎明期

目的は変わって

リアルタイム性を求めて
やはり年齢には勝てないか・・・
そしてこれから

Chapter 5. ちょっと変わった私的体験談

OL2人組はあの信者だった！
ちょっと珍しい職業の方々
ニアミスいろいろ

おわりに

はじめに

「出会い系サイト」という言葉が生まれてもう25年以上になります。

しかし、未だに「出会い系サイト」というと悪の温床のようなイメージが付いてまわり文化的・学術的に整理されたレポートや書籍が存在しないのが現状です。

「出会い系サイト」は、インターネットの普及によりパソコンを用いて利用するサービスから始まり、ガラケーを経由して、今ではスマートホンを媒体としたさまざまなサービスが生まれています。このような出会い系サイトの歴史や、その歴史を経験した人たちの体験や思いなどの記録が、このまま埋もれていってしまうのは、あまりにも惜しいものだと考えます。

本書では、あくまで「出会い系サイト」を一つの文化として取り扱っており、巷にあふれかえっている”出会い系攻略”のような全く信憑性のない記事は取り扱っていません。出会い系サイトを利用するにあたって、ある程度の経験やテクニックは必要ですが、やはり最後は人ととの関係ですからね。そんな単純ではございません。

本書では、出会い系サイトを利用している私の歴史と私が出会い系サイトを利用して経験したちょっと変わった体験をご紹介しています。

ちなみに、私の出会い系サイト歴ですが。1995年から初めてもう20年以上になります。決して自慢するわけではないですが、非常に多くの人との出会いを経験しました。恋人から、一夜（いや昼間が多いですが・・・）の関係までいろいろな出会いをしました。

そもそも、出会い系サイトで知り合った以外と付き合ったことがないものですから、出会い系サイトがなかったら今頃、童貞・独身だったと思います（笑）

最後に少しだけ宣伝させてください。

本書を執筆するにあたっての費用は、以下の出会い系関連サービスによる広告収入の一部を当てさせていただいております。

本書が少しでも読者の皆様にお役に立てたのであれば、以下のサービスもぜひご利用ください。（すべて無料のサービスです。）

「完全無料出会い系サイトの紹介屋さん」
(<https://deaiz.info/>)

本書が一人でも多くの人のお役に立つことを願つて・・・

2016年8月 「出会い系ざんまい！」 管理事務局代表

2022年8月 改定



出会い系ざんまい！

Chapter 1. 出会い系サイトの歴史

出会い系サイトはいつ生まれたのか？どのように進化してきたのか？

出会い系サイトの攻略サイトは無数にあるものの、歴史を扱ったサイトはほとんどないと思います。

そのような中で、出会い系サイトが生まれる前から順を追って、その歴史を紐解いていきたいと思います。

出会い系サイト以前（～1990年代前半）

当然の話ですが、かつて、インターネットがまだ存在しない、もしくは普及していない時代がありました。

そんな時代には今の「出会い系サイト」の祖先と呼ばれるべきサービスが多数存在しました。

「出会い系サイトの歴史」を語る上では避けて通れない「出会い系サイト以前」について解説していきたいと思います。

「出会い系サイト」とはインターネットを利用した”出会い系”のサービスを指します。インターネットが日本で本格的に普及し始めたのは”インターネット元年”と呼

ばれる1995年からです。よって、「出会い系サイト」の普及もそれ以降のことになります。

とはいえる、それまでも、様々な”出会い系”のサービスは存在していました。「出会い系サイト」はそれらを祖先としインターネット上で発展してきたサービスになります。

もっとも古くから出会い系の場として利用されていたのが雑誌の投稿欄です。様々な雑誌で”文通相手募集”的なコーナーが設けられていました。同じ趣味を持つ人同士が交流を図る場として登場したコーナーですが、やはり恋愛相手や結婚相手を求めて投稿する人も多数いました。後にこのような投稿欄のみの専門雑誌である「じやマール」や「わあでい」が創刊され人気を博しましたが、インターネットの普及とともに売り上げは落ち、2000年代前半にはどちらも休刊することになりました。

電話を利用した出会い系サービスとして1980年代に「テレクラ」や「伝言ダイヤル」「ダイヤルQ2」を利用したサービスが登場しました。

「テレクラ」はテレホンクラブの略で、電話を介して女性との会話・出会い系を斡旋するサービスのことです。イメージとしては、現在インターネット上にある2ショットチャットの音声版と考えれば近いと思います。1989年にNTTが「ダイヤルQ2」というサービスを提供し始め、

これを利用した”ツーショットダイヤル”や”伝言ダイヤル”というものが登場し、自宅で簡単に出会い系サービスを利用することができるようになっていきました。

「ダイヤルQ2」とは電話による情報料代理徴収サービスのことで、これを利用した業者に電話すると電話代に情報料が加算される仕組みになっています。最終的には出会い系・アダルト系のサービスでばかり利用されるようになり、2014年にサービスを終了しています。

1980年代後半に日本では”パソコン通信”が普及し始めます。とはいえる、現在のインターネットのような普及率ではなく、一部のマニアのみが利用していたくらいの規模でした。インターネットが世界中に張り巡らされたコンピュータのネットワークに対して、”パソコン通信”は、パソコン通信サービスを提供している業者と、そのサービスの加入者のみを接続した小規模なネットワークで、当然、異なる業者のサービスを利用している人同士では通信することはできませんでした。それでも、今の掲示板（BBS）やチャットの原型となる機能もあり、「出会い系サイト」の原型となるようなサービスも登場しています。

1990年代前半は、女子高生を中心として”ポケベル”（ポケットベルの略）が普及するようになりました。”ポケベル”は、初期の段階では数字のみを送信することしかできませんでしたが、その後、文字を送信す

ることも可能になり、女子高生のコミュニケーションツールとなっていました。時を同じくして、街のゲームセンターを中心にプリント俱楽部（プリクラ）が登場し、こちらも女子高生を中心に大ヒットしました。そして、プリクラの筐体の横に掲示板が登場するようになり、自由にプリクラで撮った写真シールを貼ることができます。このシールの裏にポケベルの番号を書く人が出現し始め、まさに出会い系サービスと化していました。

その後のインターネットが登場し「出会い系サイト」の登場となるのは前述のとおりですが、それに伴い、これらの出会い系サービスが次々に消滅していくこととなったのでした。

出会い系サイト誕生（1990年代後半）

コンピュータの世界にインターネットと呼ばれる巨大なネットワークが登場し、そのネットワークに誰でも気軽にアクセスできるようになりました。”ネットワーク”とは、”つながり”を意味するもので、人と人が”つながる”ために利用されることはずつ然だったと言えるでしょう。

ここでは、インターネットの普及から出会い系サイトの誕生までを追っていきたいと思います。

1995年11月23日、日本では一つの大きな出来事がありました。

Microsoft Windows 95日本語版の発売です。

ここから一般家庭にパソコンが普及し、さらにインターネットへの接続が一般化していくことになります。

そして「出会い系サイト」は、この頃にはすでに存在が確認されています。しかし、インターネット接続の一般化に従って、ここから爆発的に利用者を獲得していくことになりました。この頃の出会い系サイトは、ほとんどが運営者が趣味で作ったようなサイトで、面倒な登録もなく、無料で簡単に掲示板への書き込みができるようなサイトが多数を占めました。まだセキュリティ面でも寛容な時代でメールアドレスや電話番号を直接書き込み、不特定多数の人間に晒しても平気な時代でした。

この頃に”出会い系サイト”をはじめ、”ネット恋愛”、”パソ婚”などの単語が出現するようになります。

パソコンへインターネット接続が普及し始めたとは言え、まだまだテレビのように一家に一台、一人に一台というわけでもなく、大学生や一部の仕事でパソコンを使う一部の社会人あたりからインターネット利用が普及していきました。そのため、この時代は比較的”頭の良い

人”、”常識のある人”がインターネット利用者の大半を占め、出会い系サイトでも、事件や問題が起こることもありませんでした。

そのような限られた人のための「出会い系サイト」だったわけですが、この当時は、まだまだ「出会い系サイト」を得体のしれない怪しいサービスと捉え、出会い系サイトに抵抗がある人が多かったと思います。

しかし、1998年には、トム・ハンクスとメグ・ライアンが主演の恋愛映画「ユー・ガット・メール」が公開され、同年に竹野内豊主演のテレビドラマ「WITH LOVE」が放送されました。

これらはどちらもネット恋愛を扱ったドラマであり、これらの影響もあり、「出会い系サイト」が次第に市民権を得ていくことになりました。

とはいえ、この時点では、やはり高価なパソコンを購入できる経済力と、そのパソコンを使いこなすスキルを持つ人だけが利用できる、限られた人のためだけのサービスでした。

「出会い系サイト」が誰でも気軽に利用できるようになるためには、”携帯電話”的普及と”携帯電話”によるインターネット接続の普及を待つ必要がありました。

携帯電話の普及（2000年代前半）

インターネットの普及から少し遅れて携帯電話の普及、その後、携帯電話からのインターネット接続が可能となりました。

パソコンと比較すると普及率が格段に大きかった携帯電話から、出会い系サイトを利用させようとする業者が登場するようになります。

ここでは、携帯電話の発展と、これによる出会い系サイトの爆発的な普及の時代を解説していきます。

携帯電話の歴史は古く、1980年代に”自動車電話”が登場し、今の携帯電話の仕組みが出来上りました。これは、自動車に搭載できる電話であり、会社社長や、役員などのエグゼクティブ、忙しいエリートビジネスマンのステータスとなりました。

まもなく”ショルダーホン”が登場しました。これは肩にかけて持ち運ぶもので、重量は3Kgありました。携帯電話と呼ばれるものは、1987年に登場し、この時に電話の重量は900gありました。

その後、携帯電話の小型化、通信方式のアナログからデジタルへの移行、端末および通信料の低価格化を経て、1990年代後半には、ついにインターネットへの接続が可能となりました。

この頃に携帯電話の普及率は50%ほどです。つまり日本人の2人に一人は携帯電話を持っていたということになります。普及率100%（一人で複数の端末を所持する人がいる状態）を超える現在と比較すると圧倒的に少ないですが、それでも、普及率30%だったパソコンと比べるとはるかに大きい数字でした。

携帯電話からのインターネットアクセスには制約が多く、データ量が大きいサイトを見ることができない、通信した量に応じて通信料が課せられ、また通信料も高額だったことから、携帯電話専用のサイトが登場するようになりました。

「出会い系サイト」も例外ではなく既存のパソコン向きサービスが携帯電話にも対応したり、携帯電話からアクセス専用のサービスも登場するようになりました。

この頃から「出会い系サイト」の利用者が爆発的に増え、未成年者の利用も広がっていきました。

前述したとおり、この頃の携帯電話からのインターネット接続の通信料は非常に高価であり、定額制でなかったため、月の利用料が何十万になるような人も出てきました。「パケ死」という言葉が登場し、携帯電話の通信料が払えない人が出てくるようになり、それを補うために援助交際をする女子高生も出てくるようになりました。

そして、ついには、トラブルや性犯罪などの事件も多発するようになり、2003年には「出会い系サイト規制法」という法律が制定されました。これは、18歳未満の児童を性行為目的で誘い出す書き込みをインターネット上で行なうと行為などを禁じ、罰則化したのですが、このような規制が設けられる中でも、「出会い系サイト」の利用者の増加、トラブル・事件の増加は止まることはませんでした。

また「出会い系サイト」業者の競争も過熱し、”サクラ”を使ったサイトの登場や、迷惑メールの横行が始まりました。

携帯電話で「出会い系サイト」を利用することで、いつでも、どこでも、気軽に出会うことができるようになりましたが、その裏では様々な問題が発生するようになつていったのです。

その後、インターネットでのサービスもますます発展していき、出会い系サイトのサービス内容の多種多様になっていきます。また、”ブログ” や”SNS”のような個人が気軽に情報発信する場も増えていき、インターネット上での”出会い系” も多種多様になっていきます。

SNS時代（2000年代後半）

インターネット上のサービスが成熟し、人と人とのコミュニケーションの場としてSNSが登場するようになりました。

普通の出会い系サイトとは異なり、非常に多くの機能を備えたSNS出会い系サービスがかぶさってくるようになりました。

ここでは、SNSの普及と、それで出会い系サイトに与えた影響について解説していきます。

インターネットが普及し始めた1990年代においては、インターネットを使用した個人の情報発信方法として自分のホームページを持つことが主流でした。自分のホームページを持ち、そのホームページ内で日記を書いたりしていました。

しかし、これには、ホームページを作る技術をはじめ、作ったホームページを置くWEBサーバーをレンタルするための知識等、一般の人にはかなりハードルの高いものでした。

2000年代に入るとWEBの技術やサービスもかなり成熟されていき、レンタル日記帳やブログ等、個人で気軽に情報発信できるようになっていきました。そして、その後SNS（ソーシャルネットワークサービス）が登場し、日記、掲示板、コミュニティ、メッセージのやり取り等の多機能サービスが登場し爆発的に普及するようになりました。

ちなみにこのSNSというサービスの当初の目的は、”個人間のコミュニケーション”であり、現実世界の繋がりをインターネット上に再現するといった考え方がありました。そのため、基本的には実名での登録で、また既存の参加者からの招待がないと参加できないシステムになっているサービスが多数ありました。

しかし、そんなSNS考案者の思いとは裏腹に最終的には匿名での登録が主流となっていくのでした。また、招待制だったため、限られた人しか登録できなかつたSNSも次第に誰でも登録できるように変更されていき、より一層利用者を増やすことになりました。しかし、一方で、他のサイトへの誘導をおこなういわゆる”業者”や、犯罪がらみのことで利用とする者も増加し、トラブルや事件も増加していくことになります。

このようなSNSブームの中、従来の「出会い系サイト」にSNSの機能を取り入れるケース、また出会い系に特化したSNSも多数登場し、様々な形態のサービスが登場し、「出会い系サイト」は混とんとした時代を迎えました。出会い系サイトのSNS化により、より個人についての情報が多く公開することができるようになり、インターネット上でより深いつながりを持てるようになりました。

また、コミュニティの機能により、今までではあまり一般的でなかった「オフ会」も頻繁に開催されるようにな

り、参加者も増加していきました。

さらにSNSから「ソーシャルゲーム」が誕生し、SNS上でみんなで協力してゲームをクリアしたり対戦したりするようになり、出会い系にも様々なパターンが生まれていくことになります。

SNSは、今ではWEBの検索サイトのように、なくてはならないサービスとなり、今後もSNSの人気は衰えることはないでしょう。また、最近では、再び従来のSNSの思想である実名での利用に回帰している傾向があります。

スマートフォンの登場（2010年代）

普通の携帯電話、いわゆるガラケーに代わって普及してきたスマートフォンですが、やはり出会い系サイトも、その普及の波に乗りスマートフォンユーザーをターゲットとしたサービスを開始していきます。

ここでは、スマートフォンの普及と、それが出会い系サイトに与えた影響について解説します。

2000年代後半から携帯電話は、いわゆる”ガラケー”からスマートフォンへの移行が始まりました。スマートフォンは、ネットワーク接続が前提の端末のため、通信料は基本的に定額で6000～8000円と高額で、端末自体も

50000円以上し、また端末自体の性能も良くなかったため、スロースタートとなりましたが、各種領域の低価格化、端末の高性能化により、ついにはシェアが”ガラケー”を上回るようになりました。これには、なにより、アップルの”iPhone”発売の影響が非常に大きかったのかもしれません。

スマートフォン、通称スマホが普及することにより、各種WEBサイトは、スマホに対応するようになっていきました。もちろん出会い系サイトも例外ではありません。大手の出会い系サイトは少し対応が遅かったように思えますが、徐々にスマホ対応サイトになっていきました。

スマホが普及するにつれ、スマホ用のアプリも充実していきました。そして、”LINE”や”カカオトーク”に代表されるコミュニケーションアプリも登場するようになりました。主な機能としては、利用者同士でメッセージの交換ができるメッセージ機能と、無料で通話ができる機能で、これらのサービスはパソコン上では古くから存在していたサービスになりますが、スマホができるお手軽感と洗練されたユーザーインターフェースにより多くのユーザー数を獲得していきました。中でも、メッセージの中で使用するスタンプ機能は、従来の携帯電話のメールに搭載されていた”絵文字”をさらに進化させ、スタンプ1つで会話が成立するようになり、お手軽さを加速させました。今まで、メッセージのやり取りに携帯電

話のメールを使うことが主流でしたが、これによりコミュニケーションアプリの使用にシフトしていくことになります。

このような状況を受けて、SNSや出会い系サイトでも専用アプリを開発し、従来の機能に加えて、メッセージ機能や無料通話機能を搭載するようになっていきました。

ついには、「出会い系アプリ」も登場するようになります。これは、従来の「出会い系サイト」のようにWEBでのサービスではなく、専用アプリのみのサービスとして提供されるものです。アプリである利点を生かし、GPSを利用して今いる場所の近くにいる人を検索することができます。また、音声通話やビデオ通話ができたりとアプリによって様々な機能を搭載しています。

このように出会い系サイトの形態もますます混じり合っていき、信頼できる大手のサイトから、胡散臭いサイトまで乱立している状態です。「出会い系サイト」を利用した出会いや結婚は、すっかり一般化してきた感はありますが、相変わらず、出会い系サイトを利用した出会いによるトラブルや事件で、連日世間を騒がせていますし、利用される方は、十分に注意し、信頼できるサイトのみを使用していただきたいと思います。

さて、今後「出会い系サイト」はどのように進化していくのでしょうか・・・。末永く見守っていきたいものです。



出会い系ざんまい！

Chapter 2. 出会い系サイトの種類

無料のサイト、有料のサイト、最近ではサイトではなくアプリとして存在するものもあります。

出会い系サイトも細分化され、いったいどのようなサイトを利用したら良いのか分からぬ人もいらっしゃるのではないかと思います。

ここでは客観的に出会い系サイトの種類についてまとめ、サイト選びの参考にしていただけるよう体系化していきたいと思います。

野良サイト

出会い系サイトのジャンルとして「野良サイト」という言葉は本書にて勝手に命名させていただきました。出会い系サイト黎明期の主役だった野良サイトですが、個人情報の保護や出会い系サイトにまつわる事件が問題視されている中で、今ではあまりお勧めできるサイトではなくなってしまいました。とはいえ、優良なサイトも多数あり、利用方法を間違わなければ出会いのチャンスが広がります。ここでは、「野良サイト」について解説したいと思います。

「野良サイト」というジャンルの出会い系サイトは存在しません。こちらで勝手にジャンルとして整理しました。ここでいう「野良サイト」とは、サイト運営者が趣味で運営し、また、あまり管理の行き届いていないような出会い系サイトと定義します。

例えば、「出会い系サイト規制法」に基づいた出会い系サイト事業の届出もされておらず、事業としても成り立っていないようなサイトです。このようなサイトは、基本的に運営者自らがサイトを構築し、レンタルの掲示板やチャットを借りて”メル友募集”のようなタイトルを付けただけのサイトが多かったりします。

利用者にとっては、基本的に無料で、しかも何の登録もなしに掲示板への書き込みやチャットの利用等が行えるため、非常に利便性が高いと言えます。そのため、一部のサイトでは非常に多くのユーザー数を獲得しており、広告収入によって莫大な利益を得ているサイト運営者も少なからず存在するようです。

しかし、この「野良サイト」は、さまざまな問題を含んだサイトでもあります。

まず、前述のとおり、多くのサイトは、「出会い系サイト規制法」に基づいた出会い系サイト事業の届出がされておりません。この時点で違法なのですが、届出をして

いないため、サイトのテーマが非常にブラックなケースも多いです。例えば、18歳未満の子供を含む出会い系の場として提供していたり、援助交際募集、その他違法行為の募集の場としているサイトも多く見受けられます。また、サイト自体が趣味で運営されている場合が多いため、比較的ノーマルなテーマを持ったサイトでも、違法行為に関する書き込み等が削除されずに野晒しになっているケースも多いです。

さらに、誰でも気軽に掲示板の読み書きができるため、メールアドレスを晒してしまえば、いわゆる業者からの迷惑メールが殺到することになります。

「出会い系サイト規制法」の制定前までは、このような「野良サイト」が出会い系サイトの第一線で活躍していましたが、それも、まだ、インターネットで大きな問題や事件が発生することがなかった遙か昔の話。なるべくなら利用しないのが吉と言えるでしょう。

とは言え、中にはしっかりと運営し、評判の高い「野良サイト」が存在するのも事実です。どうしても利用したい場合は、フリーアドレスを使用し、個人情報は絶対に晒さないように注意しましょう。

無料サイト

サイト内のすべてのサービスが無料でできる「完全無料な出会い系サイト」

利用者にとって何よりもありがたいことですが、一方で無料が故のデメリットもあります。

ここでは無料サイトの仕組みをご紹介し、メリット・デメリットを解説します。

「無料サイト」とは、ここでは利用するのに全くお金のかからない”完全無料”の出会い系サイトを指します。掲示板への書き込みや、人の検索、プロフィール閲覧、メールの送信もすべて無料となっています。もちろん入会金なども一切ありません。

では、このようなサイトの運営者は何のためにサイト運営を行っているのでしょうか？

人々に素敵な出会いをもたらし幸福になることを祈つて？単なる趣味？

いえ、もちろんお金のためです。「無料サイト」も立派に事業として成り立っています。具体的には広告収入が主な収入源になっていることが多いです。例えば、無料サイトのページに有料の出会い系サイトやアダルトグッズ等の広告を掲載したりされているサイトが多いと思います。その他には、有料の出会い系パーティや開催等で収入を得ているようなサイトもあります。

利用者にとっては、完全無料のため非常に利用しやすく、お金を気にせず好きなだけ利用できるのが最大のメリットとなりますね。お金を払わなくても良いということは、クレジットカード番号の登録等もないため、完全に匿名で利用できることも無料サイトの利点です。運営側も事業として運営しているわけですから、管理も行き届いており、「サクラ」や他のサイトに誘導する「業者」と言われる存在が皆無と言ってよいでしょう。

まさに出会い系サイトの入門に相応しいと言っても過言ではないですが、デメリットもそれなりにあります。

それは完全無料だからこそその特徴です。男性会員が異常に多い場合がほとんどです。そのため、男性会員が掲示板に書き込んでも、だれからもメールが来なかったり、女性会員にメールを送っても返信がなかったりすることも多いです。有料サイトでは、女性の利用料は完全無料だったりするケースがほとんどですので、男女のバランスが取れた状態になっています。（それでも男性会員の方が多いと思いますが・・・）

無料サイトでも、ネットナンパに長けたような人だったら、それでも、たくさんの女性との出会いを獲得されているのかもしれません、普通の人には出会うためには少し根気が必要になるかもしれません。「お金はないけど時間ならある」向きのサイトだと言えます。

有料サイト

男性の利用者にとって無料サイトと比較すると魅力がかなり落ちてしまうであろう有料サイト。

しかし、有料サイトだからこそそのメリットもあります。

出会い系サイト大手と言われるところのほとんどは有料サイトであり、これらのサイトが長きに渡って健全に運営されていることからも、それなりの利用者がいて一定の収益を上げていることが分かります。

ここでは有料サイトについて解説していきます。

「有料サイト」には大きく2種類の料金体系のサイトが存在します。一つは”ポイント制”、もう一つは”定額制”です。

なお、多くのサイトでは女性は完全無料で、男性のみに対して課金されます。

それでは、”ポイント制”のサイトから解説しましょう。多くの場合、入会金は無料。入会時に少しばかりお試しポイントが付きます。掲示板への書き込みや会員のプロフィール閲覧、メール送信等、ほとんどのアクションに対してポイントが必要になります。1日1回だけ掲示板への書き込みは無料であることが多いですが、その書き込みに対して返事があった場合に、そのお相手にメール送信する場合はポイントが必要であるため、事前にポ

イントを購入しておくことが必要です。ポイントはクレジットカードや銀行振り込み、提携先の携帯電話会社から電話代と一緒に引き落とし等で支払います。必ずポイントを購入してからの利用（＝前払い）なので、後から料金を請求されるといったことはありません。

次に、”定額制”ですが、入会金は無料のところが多いですが、中には入会金が必要なサイトもあります。以降は月単位、半年単位、年単位等で定額を支払い、その期間中は全サービス使い放題になります。

これらのサイトの特徴をまとめますと、まず、男性は一定の金額を支払うため、いたずら半分で登録するようなことがあまりありません。そのため女性にとって安心のサイトと言えます。また、ほとんどのサイトで男女共に身分証明書の提示を義務付けているところが多く、利用するには無料サイトと比較して少々ハードルが高い出会い系サイトと言えます。男性会員にとっては、有料ですが、そのぶん男性会員数も少なく出会い系やすいサイトになりますのでお金にものを言わせてたくさん出会うことができます。

一方で、悪徳サイトも多数見受けられます。例えば、「サクラ」を使って男性会員にポイントを過剰に消費させたり、登録期間を延長させたりするサイトが、たまにニュースでも取り上げられています。そのため、利用す

る際には、大手の有名なサイトを利用するようになります。

それでは、”ポイント制”と”定額制”のサイトのどちらを利用すれば良いのでしょうか。どちらにも一長一短あると思いますが、コストパフォーマンスから言うと”ポイント制”的の方をおすすめします。

”定額制”的のサイトの料金ですが、1か月2~3000円、1年だと10000万円以上のところが多いです。”ポイント制”的のサイトは、実際に使用すれば分かるのですが、よほどどのヘビーユーザーでなければ1年で5000円使うかどうかというくらいです。定額制の一度払ったら使い放題という安心感は魅力的ですが、ポイント制の方が断線に安く上がります。

とはいっても、最終的にはどちらが良いかは、サイト次第・使う人次第だと思います。また、前述した”無料サイト”も含めていろいろ試してみて信用できる、かつ自身にあったサイトを選択するのが一番だと思います。

特殊なサイト

今まで解説してきた「無料サイト」「有料サイト」とは少し運営方法や料金体系の異なるサイトが存在します。これらのサイトは少数派であり、きちんと収益が上がっているのか疑問なサイトも多数ありますが、ご参考まで

に紹介してきたいと思います。

基本的には、よほど信用できるサイト以外は避けておいた方が良いと思います。

どうしても使用したい人は、リスクが伴う覚悟でご利用ください。

「特殊なサイト」とは、ここでは一般的なサイトとは異なる形態のサイト（登録の方法や料金体系等）と定義します。特殊な趣味・嗜好をテーマにしたサイトはいろいろありますが、ここでご紹介する趣旨とは異なります。

早速ですが特殊なサイトとしてどのようなサイトがあるかご紹介していきます。

・出会い紹介所

結婚相談所のようなものと理解してもらえば良いかと思います。人力で男女をマッチングするサービスを主なサービスとし1対1のマッチングはもちろん合コンをセッティングするようなサイトもあります。料金体験は1回のマッチングで発生したり、相手に初めてメールを送る際に発生したりと基本的には成果報酬の形をとっているところが多いです。

・出会い系サイト

女性へのアポイントを男性がオーバークション形式で競るサイトです。仮に競り落として女性へのアポイント権を得たとしてもその女性から返事がもらえるとも限りませんし、果たして需要があるのかどうか分からぬサイトで

す。

なるべくなら登録しない方が良いでしょう。

- ・ソーシャルゲーム

特殊というわけではないのですが・・・。

ソーシャルゲームとは主にSNS上などで遊べるコミュニケーション機能を持ったゲームのことです。最近では、このコミュニケーション機能が強化され、出会い系色が強いゲームの登場するようになりました。ネット上でゲームで遊びながらお互いの愛を深める・・・。そのような出会いが期待できるサービスです。

普通の出会い系サイトの飽きた方、よりスピーディーな出会いを求めている方はご利用してみてはいかがでしょうか。

SNS

今やWEBでのメジャーなサービスの一つとなり、時折、新聞やニュースでも取り上げられる「SNS」

「SNS」は、人間同士が繋がるコミュニケーションの場であるが故に、必然的に出会い系サイトと比較され、混同され、時には、サイト自身にそれらの区別を持たせていないようなサイトも登場しています。

ここでは「SNS」とはどのようなものか？また、出会い系

系サイトとの関係性はどのようにあるのか解説していきます。

「SNS」とは”ソーシャル・ネットワーキング・サービス”的の略です。

インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこととで出会い系サイトとは異なるサービスです。SNSのコンセプトとして実名で登録し、基本的には現実の交友関係をネット上に持っていくことが挙げられますが、SNSがピークの時には匿名での登録が多くなりました。

しかしこの”インターネット上の交流を通して・・・”という辺り、出会い系サイトと通じるものがあります。具体的には多くのSNSでは自分のプロフィールを設定し日記を書いたりコミュニティというテーマが設定された掲示板を読み書きしたりすることができます。会員を検索したりコミュニティの書き込みを見てメールを送ることができます。まさに現在の出会い系サイトそのものです。

そのため、出会い系を目的としたSNSが登場したり、普通のSNSの中で出会い系を求める人も出てきました。

また、2000年代後半から始まったSNSブームに乗っかって従来の出会い系サイトもSNS機能を搭載するようになり、「出会い系サイト」＝「出会い系SNS」のようなイメージが定着しています。

非出会い系SNSでは、出会い系的な使い方に制約を設けているサイトと寛大なサイトがあり、厳しいサイトだと会員に電話番号やメールアドレスを送るだけで強制退会させられるところもあるので注意が必要です。出会い系的な使用が可能なサイトでは、大量の登録者数をターゲットとして出会い系を探すことができるので、使い方によっては、その辺の出会い系サイトより遥かに出会い系やすいこともあります。

2000年代に乱立していたSNSも現在はかなり淘汰されてきていて、また本来のSNSのコンセプトである実名での登録に回帰している傾向があります。そのため現在では普通のSNSを出会い系サイト代わりに利用するのは難しくなってきており、SNS機能を持った出会い系サイトを利用することになります。

アプリ

出会い系サイトといえば、WEB上での出会い系サービスを指しますが、スマートフォンの普及によって、限りなく出会い系サイトに近く、かつWEB上での展開ではないサ

ービスが登場してきました。

アプリによるサービスの提供です。

ここでは、出会い系アプリとはどのようなものか、どのようなサービスを展開しているのか解説していきます。

厳密には出会い系サイトではないですが・・・。

スマートフォンの普及により、今までWEB上でのサービスとして展開していたサービスが次々にスマホ用のアプリとしてリリースされることになりました。例えば、検索サイト等のポータルサイト・某オンラインショッピングサイトからグルメ情報サイトまで、大手のWEBサービスのほとんどはスマホアプリ化されているのではないかでしょうか。それらは、もちろんWEB上でのサービスと同等の機能を持っていますが、アプリ化することでサービスへのスピーディーなアクセスと操作のしやすさが向上しています。

そして、出会い系サイトも例外ではありません。大手の出会い系サイトは専用アプリをリリースしユーザーの囲い込みを行うようになりました。出会い系サイトをそこそこ利用している方はアプリをインストールして利用する方が断然便利ですのでおすすめします。

そして、ついには出会い系アプリが登場することとなりました。これまでのもともとWEBサービスだった出会い系

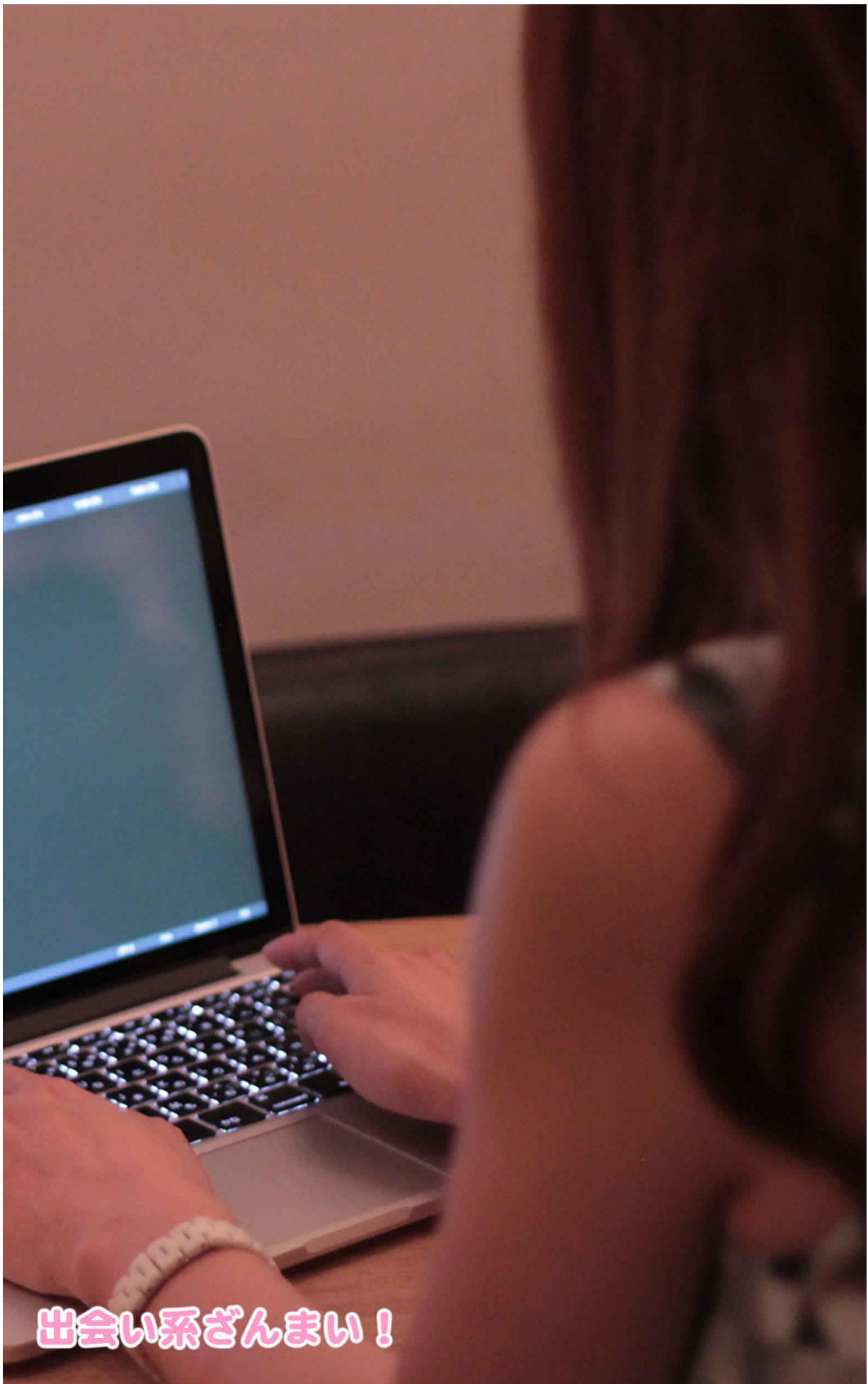
系サイトをアプリでも操作できるようにしたものでしたが、今度はWEB上でのサービスは存在せず、アプリをインストールすることのみで利用できるサービスの登場です。

主な機能としては、プロフィールの登録、掲示板へ読み書き、メールの送信、チャット等今までの出会い系サイトとほとんど変わらないものになっています。

しかし、このようなアプリではアプリであるということを生かした独自に機能を持っている場合が多いです。例えば、GPSを利用して今いる場所の近くにいる人を検索することができたり、音声通話やビデオ通話ができたりとアプリによって様々な機能を搭載しています。

これらの機能により、従来の出会い系サイトと比較してスピーディーな出会いも可能となっていました。多くのサイトが基本的な機能は無料で、一部の機能は有料となっていることが多いですが、普通に利用する分には無料の機能のみで十分だと思います。

興味を持たれた方はぜひ一度試してみてはいかがでしょうか。



出会い系ざんまい！

Chapter 3. 出会い系サイトあれこれ

出会い系サイトにまつわる話題をいくつかピックアップしてご紹介します。

「出会い系サイト規制法」とは何か

出会い系サイトの利用者が爆発的に増え様々な問題や事件が発生した2000年代。

このような状況の中で、「出会い系サイト規制法」が2003年に制定されました。

これにより大手の出会い系サイト業者の一部はサービスに対する方針転換を迫られることになりますが、一方でいまだに守っていない業者も多く存在します。

ここでは、「出会い系サイト規制法」とはどういうものなのかを見ていきましょう。出会い系サイト規制法。正式名称は「インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律」という非常に長

い名前です。これは平成15年に制定された法律で、平成20年に一部改正がなされ現在に至ります。

正式名称が語る通り、この法律は、児童を守るためにものであることが分かります。児童とは、学校教育法では小学生を指しますが、この法律では18歳未満を指します。出会い系サイト規制法についての詳細は、一度、警視庁の [「出会い系規制法の解説」](#)あたりを読んでもらいたいですが、簡単に要約するとこういうことです。

- ・出会い系サイト利用者は18歳未満の子供に交際を求める書き込みをしてはいけませんよ。援助交際なんてもつてのほかです。
- ・18歳未満の子供は出会い系サイトを利用してはいけませんよ。
- ・出会い系サイト運営者は、18歳未満の子供が利用しないように厳しく監視する必要がありますよ。なので、利用者が18歳以上であるという確認（免許証とか）は必ず行ってくださいね。
- ・あと、出会い系サイト運営者は、しかるべき機関に届出を出してね。
- ・インターネットプロバイダは、フィルタリングサービスを提供するなど、18歳未満の子供にむやみに出会い系サイトにアクセスさせない努力をしてください。

もちろんこれらを破ると厳しい罰則が待っています。

そう、現在出会い系サイトは18歳以上しか利用できないことになっているのです。

しかし、周りを見渡し見ると、普通に18歳未満の人間がメル友募集などの書き込みをしていたりします。小学生のためのメル友募集の掲示板だって存在しますね。また、通常のSNSのような出会い系サイトでも出会い系サイトとして利用する輩が続出しており、これら出会い系目的の人間がいないとこれらのサイトも成り立たないのではないかとすら思えてきます。

ネットの世界は、現実とは違う概念の空間であり、法律がまともに機能していません。たとえば、音楽や映画の違法ダウンロードが問題になっていますが、ネットの世界は、リアルな世界に比べて時間軸が速すぎて人間の力ではそれらを管理・検挙することができないのです。時間軸が速いとはどういうことか。例えば掲示板に何か書き込むのも一瞬でできますね。これら現実の世界だったら、まず掲示板のあるところまで移動し書き込んだり、雑誌の読者コーナーに投稿するというのが該当するところでしょうか。これらを行うには、半日～1か月近くかかるかもしれません。

では、どのようにすれば、ネット・・・出会い系サイトの秩序は保たれるのか？

答えは分かりません。リアルの世界は、例えば日本だと1500年以上の歴史の中で試行錯誤を繰り返して出来上がった秩序があるのに対して、ネットの世界はまだ数十年程度です。これからどのようにネットの世界が進化していくか、興味を持ってみていくとよいでしょう。

”サクラ”は本当に存在するのか？

よくテレビのニュースでも取り上げられる「サクラ」出会い系サイト利用者にとって最も忌み嫌われる存在ではないでしょうか。

「サクラ」は本当に存在するのか？「サクラ」に騙されないようにするためにどうにしたら良いのか？ここでは、「サクラ」について解説していきます。

出会い系サイトにおいての「サクラ」とは、主にサイト利用者になりすまし、サイトを盛り上げたり、ほかの利用者とメッセージ交換をしてポイントを消費させたりする人のことを指します。

江戸時代に歌舞伎を無料で見させてもらうかわりに、芝居の見せ場で役者に掛けたりしてその場を盛り上げる人のことを「サクラ」と呼んでいたことが語源で、その場限りの盛り上がりを桜がパッと咲いてサッと散ることにかけたものだそうです。

たいていの場合、「サクラ」は女性で、被害者は男性になります。ただし、「サクラ」はあくまで登録上は女性というだけで、実施に成りすましている人物が女性とは限りません。一説によると、男性の心情をよく理解している男性の方が「サクラ」に向いているとも言われています。

ここで、「サクラ」の語源について解説します。もともとは、芝居の見せ場で役者に掛けたりしてその場を盛り上げていた人のことを指し、桜の花見はそもそもタダ見であること、そしてその場限りの盛り上がりを桜がパッと咲いてサッと散ることにかけたものだということです。

一時期、テレビで「サクラ」のアルバイトをしている主婦の特集が組まれたりして、「サクラ」の存在、また「サクラ」という職業の知名度が上がり、「サクラ」のアルバイト希望者が急増したようです。

この「サクラ」という職業、2012年11月には「サクラ」のアルバイトが詐欺罪で立件され、それ以降も定期的に「サクラ」が逮捕されたり、「サクラ」行為を行っている出会い系サイト業者が逮捕されたりと、今では、立派な犯罪であるとの認識が広がっています。

しかしながら、今でも「サクラ」行為を行っている業者、ひどいところでは女性会員は全員「サクラ」という出会い系サイトもまだまだ存在するようです。また、今まででは男性がターゲットにされていたのに対し、女性をターゲットにした”男性サクラ”も現れてきているようです。

そのような状況ですので、出会い系サイト利用者自身が「サクラ」に騙されないように自衛することが必要です。騙されないためのポイントは一つだけです。メールのやり取りを初めてすぐに「会いたい」や「性的関係を持ちたい」といった類の女性は、無視しましょう。これに限ります。このような女性会員は「サクラ」の可能性が大です。仮に「サクラ」ではなかったとして、ほかに考えられるのは、業者、詐欺師、援交目的など、いずれにしても良からぬことを企んでいる人だと思われます。基本的にはこのような女性は皆無だと思ってよいと思います。

ただし、世の中にはこの「サクラ」さえも出会い系の対象として実際に会うまでに至る強者もいるようです。まあ、こんな人はよっぽどネットナンパに長けた人なのでしょうが・・・。

皆様におかれましても、「サクラ」に引っかからないようくれぐれも注意して出会い系サイトをご利用ください

い。また、決して「サクラ」のアルバイトなんかには手を出さないようにしましょう。

出会い系サイト以外の出会い系サービス

この世の中、「出会い系サイト」だけが出会うためのサービスではありません。昨今の未婚率の上昇、少子化等の影響もあり出会い系サービスが続々と登場しています。

しかし、公共事業として手掛けられているような安全なものから、なんだかよくわからないキケンなものまで様々です。ここでは、「出会い系サイト」以外の出会い系サービスについてご紹介いたします。

インターネットが普及する前、つまり「出会い系サイト」も存在しない時代には、雑誌の文通相手募集コーナー、テレクラ、ダイヤルQ2、伝言ダイヤル等、様々な出会い系のサービスがありました。

それでは、出会い系サイトが登場し一般的な出会い系ツールとなった現在、出会い系サイト以外の出会い系サービスは存在しないのでしょうか。

いえいえ、今でも日々進化を遂げた出会い系サービスがたくさん存在しています。

それでは、具体的にどのようなサービスがあるか見てていきましょう。

- ・お見合いパーティー

これは、出会い系サイトが登場する前も登場した後も存在し、一定の利用者を獲得しているサービスですね。

1980年代後半から90年代前半にかけて某テレビ番組の影響で一気に広がりました。また、同じくこの番組の影響で「ねるとんパーティー」なんて言葉が使われていましたが、今、この言葉を使うと恥ずかしいのでやめましょう。

現在はより進化していて、様々なバリエーションのパーティーが存在します。例えば、通常は女性は無料もしくは格安で参加可能なことが多いですが、高学歴限定、お医者さん限定などの男性を限定し、女性の参加料の方を高く設定したりするケースもあります。

- ・出会い系喫茶

男性と女性に会話の場を提供する会員制のお店です。

男性は有料で時間限定、女性は時間無制限のドリンク飲み放題で無料のケースが多いと思います。

男性会員が気に入った女性を見つけたらお店のスタッフを介してトークスペースに移動し、女性と話をし、気が合えば一緒に外出するといったサービスです。その際に男性会員は女性会員に交通費や謝礼金といった名目の代金を支払う必要があります。

そのため、この謝礼金の目的の女性がいたり、そもそも、店側が用意した「サクラ」だったりというケースもあり、また、通常の女性会員にも援助交際目的の人も多くおり、どこまで真面目に出会いを見つけることができるのか疑問が多いサービスです。

・相席居酒屋

男性グループ客と女性グループ客をマッチングし、即席の合コンのような形にしてくれる居酒屋です。

お店のスタッフから相席を持ち掛けられても、あまり気に入らない相手だったら拒否することが可能ですが。基本的に女性は格安で、男性は割高な料金になっています。

男女共にリピーターが多く、何度か利用して、様々な相手と飲んでいるうちに、恋愛に発展していくようなケースも多いです。

・街コン

お見合いパーティーの地域限定版と考えたら良いでしょう。県や市などの自治体が運営していることが多いのが特徴です。このような自治体運営のケースでは身分証明書や独身であることの証明が求められたりすることが多いため、安全な出会いが期待できます。

その他、お見合いパーティーや街コンから発展して、ハイキングコン、ゴルフコン、鉄コン（鉄道コンパ）等、

共通する趣味の中で出会いうことができるサービスも続々と登場しています。

社交的な方は、ぜひ一度ご参加してみてはいかがでしょうか。

こんなサイトでも出会えます

インターネットの世界では、様々なサイトを通して人と人の交流を図ることが可能です。

「出会い系サイト」はその名の通り”出会いの提供”を目的としたサービスですが、人間同士が出会うことが可能なのは何も出会い系サイトだけではありません。もちろん男女の出会いもです。ここでは「出会い系サイト」以外で出会いが可能なサイトをご紹介していきたいと思います。

インターネットの大きな役割の一つとしてコンピュータ同士のコミュニケーション機能が挙げられますが、そのコンピュータの先にいるのは人間です。極端な話するとインターネットを利用したあらゆるサービスが人ととの出会いのきっかけになる可能性があると言えます。

とはいって、そのようなことを言ってしまうと元も子もないでの、ここではもう少し現実的な、でもちょっと変わった出会い系方をご紹介したいと思います。

・オークションサイト

オークションサイトはいろいろありますが、実際に結構出会いがあるようです。品物の出品者、落札者、もしくは入札者間で出品物について質疑応答ができるようになっていますが、その場で質疑応答を繰り返しているうちに親しい中になることがあるようです。全員、同じ品物に興味がある人同士なので打ち解けるのも早いのかもしれませんね。

・ポータルサイトのQ&Aコーナー

「Yahoo知恵袋」とか「教えてgoo」とかのことです。容易く想像できると思いますが、非常に困った状態でサイトに質問を投稿し、それに親切に答えてくれる人がいる・・・。恋の予感がしますね。

実際に本当に困っていることに対して助けてくれた人に親近感や恋愛感情がわくのはごく自然なことだと思われます。みなさんもご自身のわかる範囲で、いろんな人に回答してあげていると、いつか良い出会いがあるかもしれません。でも、ウソはいけませんよ！あくまで自分の知っていることを回答してあげるようにしてください。

その他、画像や動画を公開している人、ホームページやブログを公開している人は、それに興味を持った人からメールが来て、そこから恋が始まるなんてことも多いそうです。自分の特技を生かしてどんどん発信していくば素敵な出会いに巡り合えるかもしれませんね。

出会い系サイトを運営するには

「出会い系サイト」を利用している人の中には、「出会い系サイト」を運営してみたい！っていう人もいるのではないでしょうか。

ここでは出会い系サイトを運営するための準備や運営方法について解説していきます。

『「出会い系サイト」を運営してみたい』

そんな思いを持っている人もいると思います。

出会い系サイトを運営する理由は何でしょうか？利益をあげたいから？単にいわゆる「中の人」になってみたいから？はたまた自分の運営するサイトを悪用してより多くの出会いを得たいから？

まあ、理由は様々だと思いますが、ここでは出会い系サイトを運営するために必要なことを解説していきます。今回は無料サイトの運営を例にとってご説明いたします。

まずは出会い系サイト自体の作成が必要です。また、作成した出会い系サイトを公開するためのWEBサーバーが必要になります。この2つを用意して初めて自分の作った出会い系サイトが日の目を見ることになります。これ

らの作業は、WEBやプログラミングの知識がある方はご自身でされても良いですし、お金はかかりますが、一括して業者に頼むという方法もあります。最近は、出会い系サイト構築専門の業者も現れていますので、実績が豊富で価格の低い業者を選定するようにしましょう。

次に考慮すべきことは、「出会い系サイト規制法」です。出会い系サイトを運営するためには、所在地を管轄する警察署長を経由して公安委員会に届出を行う必要があります。届出時に提出書類としては、運営者の身分証明書やウェブサイトのURLを使用する権限のあることを疎明する資料等になります。このあたりから、一般の人は手が出しづらい状態になるでしょう。

次にこの「出会い系サイト規制法」に抵触しないサイトになっているかどうかを確認し、必要に応じて修正します。具体的には、「18歳未満の児童が利用できないようになっている」「利用者が18歳以上であるという確認（免許証等で）を行う」等を考慮する必要があります。

そうです、出会い系サイトの構築はかなりの労力が必要になる作業です。

これらをクリアすれば、あとは運営するのみです。無料サイトの想定ですので、利用者から費用を回収すること

はありません。もし有料のサイトを作るのでしたら、定額制でもポイント制でも費用を回収する手段を設ける必要があります。ネットでの費用回収方法としてはクレジットカード払いが一般的だと思いますので、その仕組みを整える必要があります。

そうそう、無料サイトで収入を得たいのであれば、WEB広告を貼る必要がありますね。

当サイトでも実施していますが、「アフィリエイト」と呼ばれる仕組みを利用します。アフィリエイトサービスを提供している業者(ASPと呼ばれています)に登録し、そこからサイトに貼るための広告を選んで貼り付けます。収入の発生方法としては、1クリックあたりの金額が設定されていたり、広告をクリックした人が物品を購入したり入会した際に収入が発生したりというのが一般的です。

ざっくりと出会い系サイト運営までの流れを説明させていただきましたが、ご興味がある方は実践あるのみだと思います。その気になればリターンがあるかどうかはともかくノーリスクで運営することも可能なのですから。



出会い系ざんまい！

Chapter 4. 出会い系サイトと僕

本書の最初に「出会い系サイト」の歴史について語らせていただきました。

ここでは、本書の著者である「僕」の出会い系サイトと共に歩んだ歴史を記していきたいと思います。

「はじめに」でも簡単に書きましたが、ます、僕の自己紹介をしておきます。

出会い系サイトを利用し始めたのは、1996年のことです。当時僕は大学生でした。バリバリのパソコンオタクで、趣味と言えばゲームを作ること。ゲームのコンテストで賞を取ったりしたこともあります。一方で、小学生の頃からサッカーをしており、運動神経もそんなに悪くありません。しかし、見た目は完全にチビのオタクです(悲)

そんな僕は、当時彼女なんていませんし、当然童貞です(笑)

しかし、パソコンオタクのおかげでいち早くインターネットに触れ、出会い系サイトを利用することができました。詳細は後述しますが、プログラミングのスキルを活かした出会いをすることができました。

今までに出会い系サイトを通じて会った女性の数は、おそらく200人くらいで、その中で最終的に付き合ったり

した人もそこそこいます。出会い系サイトに出会って以来、「出会い系サイト」にどっぷりハマりつづけ今に至ります。

黎明期

1966年。僕が大学生の時でした。その頃、「じゃマーク」や「わあでい」のような個人間での売買、物々交換、サークル・友達・恋人の募集の情報を圧また雑誌が流行の兆しを見せっていました。僕は深夜のコンビニのバイトで休憩の時間などにそのような雑誌を見るようになりましたが、自分で恋人募集を投稿するような勇気もなく、また郵送での応募が少々面倒に感じたのでただひたすら人の投稿を見るだけという日々が続いていました。その時期はちょうどマイクロソフト社の基本ソフト(OS)であるWindows95が発売されインターネットへの接続が一般庶民まで広がりを見せ始めた年でもありました。まだまだ一般家庭でインターネットに接続するには費用的もハードルが高い時代、僕は幸いにも大学で自由にインターネットを利用することができました。世間一般の新聞や雑誌では載せることができないようなアンダーグラウンド的な情報（代表的なものといえば、いわゆる無修正画像とかでしょうか）がインターネットにはあり、僕は毎日のように大学のインターネットカフェやコンピュータルームでWEBサイトを探索して回っていました。も

ちろん、さすがに大学で無修正画像を見たりはしてませんよ・・・（笑）

いつものように大学でネットサーフィン（もはや死語ですかね・・・）としていると、恋人を募集するための掲示板にたどり着きました。普段からWEB上に設置されているというものの存在は知っていましたが、そこで恋人募集をするなんて発想はまったくありませんでした。このとき、頭にピンときたのは、『「じゃマール」や「わあでい」のインターネット版を作ることができる。いや、もうすでにたくさんあるのではないか。』ということでした。

そこで、当時まだ解説されたばかりのYahoo!JAPANにアクセスして”出会い”をキーワードに検索すると案の定たくさんヒットしました。おそらく30サイトくらいだったでしょうか。合わせて同時出版されていたWEBサイトのタウンページのような書籍（書籍名は忘れてしましましたが）を見るとさらに膨大な数の出会い系サイトが掲載していました。

早速アクセスしてみると、サイトによって様々でしたが、そこそこの賑わいを見せているサイトもあるようでした。ただし、やはり女性の書き込みはかなり少なく、99%は男性の書き込みだったのではないかでしょうか。今でもこのような傾向はないとは言えませんが、当時の女性はネット上に現れるだけで、女神のように扱われ、オフ会にでも参加しようものなら、どんな女性でも女性と

いうだけで周りの男性からチヤホヤされるという時代でした。

雑誌の投稿には少々抵抗のあった僕ですが、ネットへの書き込みだと非常に楽で匿名性も高いのでいろいろなサイトの恋人募集の書き込みをするようになりました。

このことの僕のスタイルとしては、自ら募集掲示板に書き込みを行い、女性からの返事をひたすら待つということに徹していました。前述の通り、女性は女神さまなので女性の書き込みには男性陣が殺到していることは容易に想像がつきました。

ところで、このことのインターネットセキュリティについてお話ししましょう。結論を先に言ってしまえば、当時、セキュリティなんて言葉があったのかどうか分からぬくらいセキュリティ意識は皆無だったと思います。そもそも、「じゃマール」や「わあでい」のような雑誌に自分のポケベルやPHS・携帯電話の番号を掲載するような時代です。インターネットの世界でもそれは同様でした。個人情報保護法が施行されたのが2005年のことですから、”個人情報”なんて言葉もなかったと思います。みんな思い思いにメールアドレスや電話番号をWEB上の掲示板に投稿していました。

僕はというと、まだフリーメールなんて存在も知らなかつたので、大学から発行されたメールアドレスをそのまま掲示板に掲載していました。どこの大学の学生かバレバレです。大学の学生なら、メールアドレスから、所属

学部まで分かってしまいます。しかし、まあそんなことは全く気にせずにいろいろところにこのメールアドレスを書き込んでいました。

しかし、ひとつだけ困ったことが出てきました。日々山のように送られてくるスパムメールです。毎日のように、かのクリストファー・エリクソンさんからメールが送られてくるようになりました。クリストファー・エリクソン氏をご存じない方は、ネットで検索してみてください。

あちこちの掲示板にメールアドレスを晒し続けた結果、毎日100～200通くらいのスパムメールが送られてくることになりました。当時、まだ今のようなスパムフィルターのような機能もなく、送られてきたメールはすべて手元に届くことになりました。困ったことに、大学のメールサーバーに容量制限があり、それほど多くのメールを残しておくことができませんでした。そのため、日々、メールを開いたらまずはひたすらスパムメールを削除するという作業に追われるようになってしまいました。

1997年だったでしょうか。大学の友達からHotmailの存在を教えてもらいました。まだ、日本語サイトはありませんでしたが、日本語メールの読み書きは可能でした。このとき無料でメールアドレスがもらえるフリーメールの存在を知りつつ、WEB上でメールの読み書きができるWEBメールの存在を知ることになりました。まさに『目から鱗』状態です。メールアドレスがタダで貰えるなんて考えもしませんでした。その日からHotmailを使って

出会い系サイトへの書き込みをするようになりました。Hotmailなら、そこそこ大きい容量があり、日々のスパムメールを残しても容量がいっぱいになることもありませんでした。

話を戻して、僕が出会い系サイトの利用を始めてから3か月くらい経って、初めて女性を会うことになりました。が、あまりにも衝撃な出会いだったので、これについては「Chapter 5. ちょっと変わった私の体験談」をお読みください。

その後、1か月に1人くらいのペースで女性と会ったり、友達を誘って合コンしたりしていました。自分が学生ということもあり、やはり女子大生が多かったと思います。1対1で会うよりも、合コンの方が女性も抵抗なく誘いに応じてくれる率が高くなりました。ただし、僕は合コンは苦手なんですよね。容姿が良いわけでもなく、盛り上げるのも上手いわけでもないので、おいしい所は全部ほかの男が持つて行ってしまいます。結局、僕は合コンでその後付き合ったりといったことは全くありませんでした。一方で、1対1で会う方では、何人と付き合ってみたりもしましたが、付き合いながらも別の相手を出会い系サイトで探し続けていました。一種の中毒症状なのでしょうか・・・。

目的は変わって

出会い系サイトを利用し始めて3年くらい経つくると、女性の利用者も徐々に増えていき、そこから女性と実際に会うというのがかなり簡単なものとなってしまった。まず、待ち合わせをしてご飯を食べて、気に入れば付き合う・・・。このような繰り返しが単調なルーティンに思えてきてしまい、いまいち面白くなくなってしましました。でも、出会い系サイトの利用はやめません。おそらく出会い系サイト中毒者ですから・・・

(汗)

しばらくして、携帯電話からWEBサイトにアクセスできるようになりました。NTTドコモの「iモード」に代表されるサービスの登場です。これにより、世の中のインターネットユーザーが爆発的に増え、WEBサイトも爆発的に増加していました。

出会い系サイトに関しても、もはや僕には把握しきれないくらいの数になり、出会い系サイトを理由する人たちも男女問わず増えていきました。いつものように”定型文”をひたすら掲示板に書き込み続け、返事を待つ。するとそれなりに返事が来ますが、様々な人種の人から返事が来るようになってきました。今では、主に学生やOLといったちょっと知的なイメージがある女性からの返事が多かったのですが、今までには考えられないような、主婦、バツイチの人、フリーター等の人からも返事が来るようになりました。あと稀に高校生や中学生からも返事がきました。まあ、中高生は基本的に無視していますが・・・。(犯罪者になりたくないで・・・(笑))

そうして、いろいろな人とメールのやり取りを続けて行くうちに、あることに気づきました。

「たぶん、この人、合ってすぐにやれるな・・・」

そんな雰囲気というか、会話の流れになることが、たまにありました。案の定、そっちの方に会話を持っていくと、すんなりそのような約束で会える人も出てきました。

そんなわけで、ただ会うだけでは満足しなくなった僕に新たな目的ができたのです。

「会って、すぐホテルへ」そんな目的の上での出会い探しは、今までとは比較にならないくらいの難易度を誇りました。正直会うだけなら2,3日に一回は女性をゲットできる状態でしたが、この場合、やはり1か月に1度会えるかどうかになってきました。相手の女性と苦労して毎日毎日メールのやり取りをして、いざ会う時の段取りでこのような話を持ち込むとそれいらい返事が来なくなったり、メールで会話しているうちに、この人は無理だと判断してこちらから返事をしなくなったり。あと、待ち合わせをスッポカされることもごくたまに出てくるようになりました。

それでも、せっせと毎日出会い系サイトに向かう僕は、やはり中毒者なのでしょう（笑）

すぐホテルに誘ってOKをくれる女性です。やはりちょっと普通じゃない人が多いです。いわゆる”メンヘラ”（※）の人が多いです。このとき僕は初めてそのよ

うな人種と出会うことになりました。腕にリストカットの痕だらけの人はザラにいますし、背中によく分からぬい仏様の入れ墨を入れた人、もはや会話が成立しない人まで、いろいろな人を会うようになったのもこの頃だったと思います。

(※) メンヘラ・・・心の病を持った人のこと。

この頃に携帯電話からのインターネットアクセスが爆発的に増えたこと前述の通りですが、出会い系サイトの数が爆発的に増えて、あちこちに書き込みをしたい僕にとっては、これが非常に悩みの種でした。出会い系氏との数が多すぎて、もはや、すべてのサイトに書き込みをすることは不可能になっていました。そこで、僕はあることに取り組み始めます。掲示板自動書き込みツールの開発です。

当時の掲示板のセキュリティはほぼ無いに等しく、このようないわゆるスパムツールからの書き込みが簡単に行えました。実はこの書き込みツールの作成に当たっては難しい技術も不要でWEBの仕組みやプログラミングの知識があれば簡単に作れてしまいます。

こうして、ボタン一つで一瞬にして数百の掲示板への書き込みを可能にした僕は、今までと比較して格段に出会い系サイトに掛ける時間を減らすことができました。あまりにも簡単に書き込みができてしまうため、あちこちの掲示板に書き込みしまくった結果、時には、掲示板の管理人さんからおしかりを受けたりしたこと多々あり

ましたが・・・。今となっては、スパム対策がなされているところが多くなり、このような簡単なツールを使った書き込みをすることは難しくなってしましたが、今でもツールを使っていそうな書き込みを多々見かけることから、おそらくスパム対策の対策（笑）をしたようなツールを開発している人もいらっしゃるのでしょうか。

リアルタイム性を求めて

出会い系サイトを利用し始めてから長らく掲示板へ募集の書き込みを行い、返事が来た女性とメールの何日かやり取りをした後、会うといったやり方を繰り返していましたが、それがどうももどかしいように思えてきました。そのような中、じわじわと増えていたのが2ショットチャットというサービスです。もともと、掲示板上で会話をする人達が出てきたのをきっかけに、その仕組みのまま”チャット”と名前を変えただけのサービスですが、それが出会い系サイトでも登場するようになってきました。

掲示板とチャットの唯一の違いは、チャットの方には更新ボタンが設置されているか自動更新の機能があることが多いくらいです。更新ボタンとは、ボタンを押すとチャットの画面を読みこみなおして画面とを更新することです。当時のWEB技術では、誰かが書き込んだ内容をリアルタイムにほかの人が見るということが不可能で、チャットに張り付いている人は、定期的に画面を更新して

最新の書き込み内容を再表示する必要がありました。自動更新は、更新ボタンを押す代わりに定期的に画面を更新してくれる機能で、こちらの方が楽なように思えますが、書き込む文章を入力している最中に更新処理が走ってしまって、また一から書き直しということもしばしばありました。

そして、そのうち2ショットチャットが登場するようになります。2ショットチャットとは、今までのチャットが無制限の人数で当時にチャット可能なのに対して、2人でのみ会話ができる機能です。初めに入った一人がそのまま待機して、もう一人の人がそのチャットに入った段階でロックされ、それ以上他の人は入ることができず、チャットが開始されます。2人のチャットの中身は基本的に他の人には見ることはできませんが、まれに見ることができるサービスもありました。大概の場合、男性が先に入って待機し、女性を待つということが多く、ようするにテレクラのインターネット版のような感じだと考えてもらえば良いと思います。

僕は、パソコンの前に常時張り付いていないといけない2ショットチャットには全く興味はなかったのですが、日頃、掲示板で知り合った女性と携帯電話に張り付いてメールしていることを感がると、実はたいして変わらないと考えるようになり、しだいに2ショットチャットを利用することが多くなりました。

2005年くらいだったと思います。僕の出会い系サイトの利用方法は、あちこちの2ショットチャットで待機し、女性が入ってくると会話がスタート、そしてメールアドレスを聞き出して、しばらくメール交換をした後、会うというスタイルに完全に変わっていました。

2ショットチャットの良い点は、最初から会話することができるので、会うまでの期間が非常に短いことです。今だから話しますが、仕事が暇な時、職場で昼間に2ショットチャットで女性と話し、その日の退社後、待ち合わせしてホテルに直行ということも何度もありました。セキュリティの厳しい現在では職場のネットワークを利用して出会い系サイトにアクセスするなんて考えられないですね・・・(笑) すぐにセキュリティ推進課の人が飛んでやってきそうです。

当時、2ショットチャットは携帯電話用のサイトを中心に大変な賑わいを見せていました。2ショットチャットの部屋にも限りがあるため、日々男性陣で部屋の取り合いになっていました。なかには、なかなか部屋が取れない人が、いやがらせで待機している男性のところに女性の名前で入り、何も語らずに居座るといったこともしばしばありました。詳細は秘密にしておこうと思いますが、当時のセキュリティの甘え2ショットチャットには様々なセキュリティホールがあり、WEBの知識さえあれば、男性が待機している部屋を乗っ取ることも可能でしたし、いやがらせをしてくる輩にはブラクラ（※）をぶちかますこともできました。

※ブラクラ・・・ブラウザクラッシュヤーの略。引っかかるとWEBブラウザを動作不能にしてパソコンの再起動を与儀なくされる仕組みのこと。今は各種ブラウザにもブラクラ対策が取られているためほとんど引っかかることはない。

しかし、2ショットチャットにも少々厄介なことがあります。

前述したとおり、2ショットチャットで待機している間中、パソコンの前に張り付いていないといけないこと、そして複数の部屋で同時に待機していると、ちょっとした隙に女性が入ってきているのを見逃してしまうことがありました。

というわけで、こちらもITの力を使って解決です（笑）
入室した部屋の管理ツールを作成しました。これは、待機している複数の部屋の状態を常時監視し、女性が入ってきたら音声でお知らせしてくれるというものでした。
これは以前作った刑事犯への自動書き込みツールを応用し、あとは2ショットシャットの仕組みさえ解析できれば非常に簡単に作成できてしまうツールです。

これを作ったおかげで同時に10部屋くらい占拠していても女性の入室を見逃すことはなくなりました。ただし、多い時で同時に5,6人のチャットの相手をしないといけないときもあり、結局会話が追いつかないこともありますたが・・・（笑）

このような2ショットチャットは、現在はかなり衰退してきました。「LINE」に代表されるスマホ用のチャットアプリが出てきたためだと思われます。都度画面の更新を行わなければならぬWEB上のチャットと比較してチャットアプリは真のリアルタイムでの会話が可能です。僕自身も2ショットチャットの即時に出会いが可能である魅力であるものの、やはり終始パソコンに張り付いている必要があることがネックになり、次第に利用しなくなっていました。そもそも、それほど、すぐに会いたいっていう欲求もなくなっていました。歳のせいでしょうか・・・。

やはり年齢には勝てない か・・・

2007年ころから、インターネット上ではSNSのサービスが人気を博すようになってきました。多くのSNSは開設当初から出会い系サイトのような利用のされ方をされないように様々な取り組みを行ってきましたが、SNSのサービス形態は出会い系サイトの最終進化形とも言える形になっていたため、やはり出会い系サイト代わりに利用する人が続出するようになりました。当時のSNSの魅力は、何といっても利用者の多さです。とあるSNSのサイトではピーク時のアクティブユーザー数が1,500万人を超えていたと言います。今ではSNSというと様々な形態がありますが、当時の形態として、まず、個人のプロフ

イールを作成して、日記を書き、コミュニティと呼ばれるグループに入ることで共通のテーマについて話すことができるといったサービスの集合です。あと、特徴的なのが利用者同士で「お友達」として登録することができ、ネット上で個人と個人とのつながりを示すことができると言った点があります。「友達」という形のない”もの”をネット上で形にするといった点がいかにも現代的ですね。

このように潜在的に出会い系サイトとしての機能を持っているため、出会い系サイト代わりに利用する人が出るのも当然です。何より、SNSにはかなりの数の女性が集まっています。そこに男性たちが群がってくるのは当たり前です。”出会い系”をテーマとしたコミュニティがあちこちで作成され、メル友や恋人募集の書き込みがなされていくようになりました。

僕も当然この機会を見逃すようなことはしませんでした。出会い系専用のアカウントを作成し、出会い系のコミュニティに募集の書き込みをするようになりました。

もう一つ、SNSの大きな特徴ともいるべき機能があります。「足あと」の機能です。これは自分のプロフィールを見た人を記録し、リストアップしてくれる機能です。僕のプロフィールを見た人は、ひょっとしたら、僕の書き込みを見て興味を持ち、僕のプロフィールを見に来たという可能性があります。

僕は、足あとを付けた人のプロフィールをチェックし、女性であることと、あと年齢や住んでいる地域等で絞ってメールを送るようになりました。そうするとかなりの高確率で返事が返ってきました。

とは言え出会い系サイトと違って、ほとんどの人が出会い系目的で登録しているわけではないため、会える確率は出会い系サイトと比較するとかなり低かったと思います。結局は出会い系サイトを利用していたときと同じくらいの月1回程度でした。（もちろんホテル直行です・・・）

かなり長くの間、このSNSを利用した出会いを続けていました。今でもたまに利用したりします。ただし、SNS自体も衰退してきたこともあり、かなり会える確率が下がってしまいました。あと大きな要因はやはり、僕の年齢です。

20代の頃と変わらず、お相手のターゲットを18～28歳くらいに絞っているため、それでは当然会える確率も下がってしまいます。それでも、例えば15歳くらい下の女性と会えたりしたときの感動は何度あっても大きいですよ（笑）世の中にはいるんですね。稀ですが、年上・・・というかおじさん好きが・・・。

月に1度から2か月に1度、3か月に1度と、新しい出会いの頻度は徐々に落ちていきましたが、こちらの性欲もそれなりに落ちてきているので、まあちょうど良い感じで

す。

昔だったら睡眠を削ってでも、チャットしたり会いに行ったりしてましたが、今は取りあえず寝たいですもん(笑)

現在の出会い系サイトの状態はというと、SNSは衰退気味、王道な出会い系サイトはそれなりに続いています。無料サイトはもとより、有料サイトもそれなりに賑わっています。しかし、スマホの台頭により出会い系アプリなるものが溢れかえっているようです。僕も有名なアプリをいくつか使ってみましたが、どうも馴染めなくて使わなくなってしまいました。GPSを利用して近くの人を検索できたりする機能は大変よくできていると思いますけどね。

僕は、最近では、有料の出会い系サイトをよく利用しています。有料ポイント制の出会い系サイトの多くは、人にそのサイトを紹介して入会してもらうと報酬として、現金かポイントがもらえる仕組みになっています。僕は、今までで、出会い系サイトに1円もお金は払ったことはなく、有料サイトもこの報酬で利用しています。

僕のプロフィールに足あとを付けている人やメールをいたたく人の多くが30~50代のお姉さまですが、負けずに20代の女性をターゲットにして頑張っています。

そしてこれから

歳をとるにつれて新しい出会いは難しくなってきましたが、これからもマイペースで出会いを探します。

出会い系サイトの魅力は何と言っても自宅にいながらにして、膨大な女性の中から出会い系を探すことができます。そのため、手間を惜しまなければ、年上が好みの女性や、ホテルに直行してくれる女性もいつかは見つかります。路上でのナンパだと効率が悪すぎて、このようにはいきませんね。まあ、路上ナンパは見た目で9割くらいは決まってしまいそうな気がするので僕には多分チャンスはありませんが・・・(笑)

出会い系サイト黎明期より細々出会い系サイトの攻略法のような書籍を見かけます。僕も、いくつか手に取って読んでみたことはありますが、まあ、内容はかなりいかがわしいものです。僕の経験上、出会い系に攻略法なんて存在しません。もちろん、優良で出会い系サイトを利用したり、女性へのファーストコンタクトの方法等、一定の攻略法と呼べるものは存在するかもしれません、最終的には人ととの付き合いなので、パズルやゲームのような必勝法というものは存在するはずはありません。

僕の場合、”ファーストコンタクト”・・・初めに連絡先をゲットするまでの手順はほぼ一定の手順で進めることができます。そのあとのメールや電話などでの会話から会うまで、また会った後については、やはりその場その場での状況に応じた判断が要求されるので、何度やっ

ても飽きないゲームのような感覚です。
出会いを探している方々に僕からアドバイスできるとしたら、”出会いまでの過程を楽しめ”ということでしょうか。エラそうなこと言ってすみません・・・(汗)

今まででは取りあえず、すぐにホテルに直行する約束を取り付けた上で会っていましたが、最近では原点に立ち戻って、若い娘と普通にご飯を食べに行ったり飲みに行ったり、健全なデートを楽しむのもいいかなって思うようになってきました。やはり歳なのでしょうか・・・

(笑)

実際、最近では、1回目は会って普通に食事するだけで別れて、2回目に会う時にホテルに行くといった若いころの僕からは考えられないような悠長なことをしたりもしています。そのため、1回目の食事以降、相手から返事が来ないっていうこともあります、まあ、それも出会い系サイトを利用する面白さのような気がしています。

ここ最近は、SNSの多様化、スマートフォンの普及によるアプリによる出会い系等、出会い系サイトの代替になるようなサービスが続々と登場しています。また自治体による出会い系支援や、相席居酒屋に代表される民間の出会い系サービスのようにネットを介さないオフラインな出会い系も、ここに来て一気に広がりを見せています。

出会い系サイトの黎明期から利用し、その進化を興味深

く見続けてきた僕にとって、これから出会い系サイトが
どのように進化して行くのか、今後も興味が尽きること
なく見守っていきたいと思います。



出会い系ざんまい！

Chapter 5. ちょっと変わった私的体験談

基本的に出会い系サイトに登録している女性のうち、僕の経験上、実際に会えるのはいわゆる”メンヘラ”だったり、ちょっと変な性格の人だったりすることが多いのですが、変わった体験というテーマにすると意外に少ないんですよね・・・。

だいたい、普通に会ってデートするか、ホテルに直行するかの2択ですからね・・・（笑）

とはいえ、今までに200人くらいは会っているので全くないことはないです。

というわけで、ここでは、僕の数ある出会い系サイト上の出会いの中でも、ちょっと変わった体験をご紹介します。

OL2人組はあの信者だった！

1996年・・・・

僕が初めて「出会い系サイト」に出会った年です。その前年にはWindows95が発売され、世界中はWindowsフィーバーに沸き、Windows95のおかげで、難しい設定を行ったり追加でアプリケーションを購入しなくとも、誰でも簡単にインターネットに接続できるようになりました。

この年を「インターネット元年」と呼び、人類のコンピュータネットワーク社会の幕開けとなったのです

・・・とIT業界の歴史としてはこんな感じなのかもしれません、日本では、そもそも、まだまだPCの普及率も少なく、家庭でプロバイダーと契約して自由にインターネットを使えるところは、ほとんどなかったのではないでしょうか。

僕は、この頃ちょうど大学生で、大学でインターネットに接続されたパソコンを自由に使うことができました。この当時のインターネット利用者はおそらく学生や教職員、IT企業の社員等が多くを占めていたのだと思われます。

もともと僕はかなりのパソコンオタクだったことから、大学でも毎日のようにインターネットでいろいろなサイトを見ていましたが、そんな中、ふとしたきっかけでインターネット上に出会い系サイト（当時、そのような単語はありませんでしたが）の存在を知り、どっぷりハマって行くことになります。

この頃は、ビジネスとして運営されている出会い系サイトはあまりなく、ほとんどは個人の趣味で運営されているサイトでした。ひとまず、あちこちの出会い系サイトの掲示板に女性のメル友募集のメッセージを書き、ひたすら待っていましたが、しばらくの間全く返事はありませんでした。

せんでした。

それもそのはずで、この頃まだインターネット利用者が少ないので前述の通りですが、女性の利用者は輪をかけて少なかったはずです。ある統計によると1996年の女性のインターネット利用者の割合は10%ほどだったとか。さらに得体のしれない出会い系サイトなるものを利用する女性なんて、ほとんどいなかつたのでしょうか。

それでも、僕はせっせと掲示板への書き込みをし続け、出会い系サイトを利用し始めてから3か月くらい経ったある日、ついに女性からのメールが届いたのでした。

「はじめまして。よかつたらメールしませんか」

その短い文章に、初めてのメール交換の喜びで心躍ったことは忘れもしません。

僕より2歳年上で事務職をしているという彼女。この時代に家でインターネットに接続しているらしいハイテクな人でした。何度かメールをやりとりしているうちに、一度飲みに行こうということになり、あっさり会うことになりました。会う前日くらいに彼女から1通のメールがきました。

「友達も1人連れてきていいですか？」

やっぱり、一人で会うには抵抗があったのでしょうか。今ならおそらくこの時点では会うことはなかったでしょうか、当時の僕は、即座にオッケーのメールを返しました。するとさらに彼女からのメールが届きました。

「実は、私はオ○ムの信者なんです。もし、イヤだった

ら断ってくださいね。

まあ、実際のメールはもちろん伏せ字で送られてきたわけではないですし、わざわざ伏せ字にすることもないのですが・・・(笑)

ここで、僕は、正直この先はないな、と思いつつも、どうせ暇だし飲みに行くくらいならいいかと思って、

「別に気にしませんよ。よろしくお願ひします。」

と返信した。うーん、我ながら大人だ(笑)いや、むしろ若かったというべきか・・・。今だったら、単に勧誘目的なのかもしれないと疑って、わざわざ飲みに出かけるのも時間の無駄だし、おそらく会わなかつたでしょうね。そもそも、2人組ですし。

翌日夕方、某駅の改札あたりで待ち合わせをしました。

まだ携帯電話はそれほど普及していませんでしたが、当時、僕はPHSを持っていたため、顔を知らない者同士でもそれほど会うのに苦労することはありませんでした。

僕は待ち合わせ時刻の15分ほど前に待ち合わせ場所に付き、ぼーっと待っていると、向こうから2人組の女の子が歩いてきました。ひとりは細身の美人といった感じの人で、もう一人はぽっちゃりのかわいいといった感じの人でした。休日の夕方の、しかも市街地から少し離れた駅での待ち合わせだったため、周りにはほとんど人がおらず、待ち合わせの相手が彼女たちだろうことはすぐに分かりました。ひとまず、彼女たちに声を掛け、近くの

居酒屋に向かって歩きました。細身の方が僕がメール交換をしていた人で、ぽっちゃりの方が友達でした。

居酒屋に入り、しばらくは、普通に学校の話や仕事の話をし、僕も彼女たちがすっかりオウ〇の人たちだということも忘れている時に、いきなり修行の話やら、今度、教団の映画が上映されるやらっていう話をしだすようになってきました。いよいよ来たか！僕はそう思いながら適当に耳を傾けていました。まあ、結局これで入信の勧誘をされるようなことはなく、あの大事件から間もない時に話だったので、僕も興味深く話を聞くことができました。彼女たちも例の事件には後ろめたさがあると言うようなことも言ってたと思います。

居酒屋から出て、もう1件行こうってことになりましたが、ぽっちゃりの方が、近くに事務所があって、ちょっと荷物を取ってくるということで、途中その事務所に立ち寄ることになりました。事務所とはもちろん〇ウムの事務所です。事務所の前に来て、僕も一緒にに入るか聞かれました、面倒なことになったらイヤなので外で待つことにしました。その後、別の居酒屋で飲んだ後、各自帰宅し、その後も何度かメールの交換を続けましたが、いつしかメール交換もなくなってしまいました。

結局、彼女たちは、純粋に友達がほしかったのか、勧誘を目的にしていたのかよく分かりませんでしたが、オ〇ム真理教って今どうなっているのでしょうか。まだまだ信者はたくさんいるのでしょうか。

ちょっと珍しい職業の方々

僕が出会う人の職業の中では、看護師さん率が非常に高いです。そのあとに、フリーターもしくは無職、事務職、学生が続きます。あとなぜか工場勤務の人も多いです。

工場勤務の人は、毎日流れ作業をひたすらやるような仕事で、会ってみると、「なるほどな」って納得してしまいます。極度の人見知りの人が多いのです。流れ作業なら、仕事中、人と接することなくひたすら目の前の作業をこなしていくべきいいですからね。

フリーターや無職・学生さんの人は、仲良くなればなるほど煩わしく感じてきます。結構な暇を持て余していますから、メールや電話の頻度も多く、こちらがメールを送ると、相手が寝ているとき以外だったら瞬時に返信が来たりします。こちらは、毎日、仕事をしており、夜遅くまで残業していることが多いですから、この返信の早さや何通もメールが送られてくることに対して引き目を感じることもあります。あと、相手はいつでも予定が空いているので、毎週末ごとに都合を聞いてきたりするので、あんまり会う気がないときの理由を考える必要があったりします。

一方、看護師さんの場合、大きな病院の場合は、夜勤あり、土日の出勤もありで、基本的にカレンダー通りに仕事をしている僕とは予定が合わないことが多いです。そ

のため、メールも一日、数通のやり取りのみ、会うのも月イチくらいで、末永く付き合うことができます（笑）

前置きが長くなりましたが、今回は今まで出会ってきた女性のちょっと珍しい職業についてご紹介します。

その①「経営者」

一度、32歳でカフェを3店舗営んでいるという女性と出会いました。なかなか景気は良さそうですが、メールのやり取りをするたびに自慢の愛車（アルファロメオ）の話や、食べに行った高級レストランの話、最近購入したブランド物の話等、僕に取っては全く興味のないちょっとした勝ち組自慢が入ってくるので、かなりウザかったのですが、写真の交換をした際に、見た目が悪くなかったのと、会って即ホテルに行けそうな雰囲気だったのでぐっと我慢して、彼女の自慢話を立てつつメール交換を続けました。

というわけで、休日の昼間に無事会う約束を取り付けたわけですが、ホテルに入る前に昼食をおごってくれるということで、ちょっと期待しつつ待ち合わせ場所に向かいました。

自慢のアルファロメオでやってきた彼女の運転で着いたところは自分の経営するカフェです。どうやら彼女は、自分のカフェも自慢したかったようです。まあ、おごつてもらえるわけですし、彼女から店員さんに僕のことを紹介されて、ちょっと気まずい思いをしながらハンバー

グランチを食べた記憶は今でも忘れられません。

昼食後、彼女の運転をホテルに行きましたが、露天風呂のあるホテルが良いということで、僕は隣で携帯電話で近くのホテルを検索しました。どうやらホテル代も出してくれそうな勢いです。露天風呂のあるホテルなんて、それなりに料金も高く、僕も行ったことがないので今までテンションがかなり落ち込んでいたところから、一気に盛り返してきました。

無事、露天風呂付ホテルを見つけましたが、やはり高いですね・・・。普通の部屋の3倍くらい取られます。案の定、彼女がホテル代を出してくれるということになり、一緒に露天風呂に入りました。温泉にある露天風呂と違って、都会のど真ん中のビルの屋上で、普段できないことをすることに非常に興奮したのを覚えています。

自慢話は少々ウザいですが、会ってみると人柄は悪くなく、僕は一銭もお金を出すこともなく都会の露天風呂も満喫でき、非常に満足のいった出会いでした。

・・・が、やはり毎日のメールでの自慢がウザく、会ったのは結局この1回きりになりました。

その②「ネットカフェ難民」

無職です。某出会い系サイトを通じて知り合いました。出会い系サイトを利用しているとネットカフェ難民を筆頭に、泊まるところがない人がかなりいることが分かります。泊まれるところを探している女性と、泊められる男性のためのサイトもあるくらいですから、祖なりの需

要と供給があるのでしよう。もちろん、泊めてもらう女性にはそれなりの対価が求められます。男性の方は、よく知らない女性を泊めるわけなので、家の中でお金や物を盗まれたといった被害もよく聞きますので注意が必要です。

ネットカフェ難民の女性については、泊まるところは一応あるわけですから、自分の体と引き換えに泊めてもらうというよりは、単純に援助交際を持ち掛けてくる人が多いような気がします。僕も、たまにネットカフェで寝泊まりしているという人から援助交際のお誘いを受けることがあります、すべてNGです。援助交際に全く興味はありません。

話を戻しますが、このとき知り合った女性は19歳で、彼氏の家に住んでいたけど、別れてしまって家を追い出されたという女の子でした。しかし、特にお金を求めているわけでもなく、純粋に会う約束をしました。もちろん会ってすぐにホテルに行く約束はしていましたが・・・

(笑)

そして約束当日の日、会つていろいろ話を聞いていると、どうやら家庭が複雑なようで、父親の再婚相手の人と一緒に住んでいたけど、高校生の時に父親がなくなつて、高校を卒業と同時に家を追い出されたそうです。聞くところによると大学受験をして某有名国立大学に合格していたけど、当然授業料を出してもらえるはずもなく、高校卒業とフリーターとして過ごしているそうです。

落ち着いていて、かつ、しっかりとした話し方を聞いていると、某有名国立大学に合格したというのはあながち嘘ではなさそうです。話を聞けば聞くほどかわいそうになってきて、お小遣いでもあげたくなってしましましたが、それでは援助交際を変わらなくってしまいますので、ここはぐっと我慢して、とりあえず、そのホテルで1泊することになりました。久々のお風呂ベッドにとても喜んでいたのが印象的でした。

翌朝、別れる間際に、しきりにお金がないようなことを話し出していました。その時は、特に何も思わずそのまま別れてしましましたが、今から考えるとやっぱりお金がほしかったんだろうなあと思ってしまいます。会ってから、何回かメールのやり取りはしていましたが、いつしか彼女の方からメールが来なくなりました。きっと、新しい仕事も見つかったのか、新しい彼氏が見つかってネットカフェ難民から脱出したのだろうと希望的観測をする僕でした。

その③「AV女優」

風俗嬢とはよく出くわしますが、AV女優の方と出会ったのは今まで1度きりです。某SNSで知り合った彼女ですが、当時21歳、はじめに自己紹介したときに自ら職業はAV女優であると語っておられました。

AV女優をされているんだったら、アッチの方はテクニックもすごくて、さぞ満足のいく体験ができるのだろうと

お思いの方もいらっしゃるかもしれません、結論から言うと全くそんなことはなくベッドの上でも至って普通の人でした。たまに出くわす風俗嬢の方との出会いでも同様なので、そういったことは全く期待していませんでしたが、案の定、他の職業の方を変わらない普通の女の子でした。強いて言うなら見た目がちょっとハデなくらいでしょうか。さすがに見た目やプロポーションは悪くなかったと思います。

AV女優になったきっかけは、楽にお金が稼げそうだからとのことですが、結局、なかなか出演する機会がなくて、その頃はまだ3本しかDVDを発売していなかったそうです。一昔前だったら、AV女優や、風俗嬢のような方々はかなりのお金をもっていそうなイメージがありますが、決してそうでもないようです。今まであった風俗嬢の中には、1日8時間20日ほど勤務して20万円行かない月もザラにあるそうです。大学卒の初任給以下ですね。

会った後、芸名っていうのでしょうか？AVでの名前を教えてもらったので、ネットでDVDを検索してみましたが、ジャケットがまるで別人でした。ちなみにそのDVD自体は見ていません。（ちょっと興味ありましたが・・・）

ニアミスいろいろ

最後に、出会い系サイトで危うくリアルでの知り合いの女と出会ってしまいそうになった体験をいくつかご紹介

しましょう。結果からお話しすると、幸いなことに今まで何とかピンチを切り抜けて、リアルでの知り合いの女と出会ってしまったことはありません。

その①「高校の同級生の妹」

たしか1998年。僕がまだ大学生の時の話です。この当時、僕は出会い系サイトを利用するにあたって純粋に彼女を見つけることを主目的としていました。

今では、よっぽど親しくならないと本名を教えあうことはないと思いますが、当時、まだインターネット黎明期でネット犯罪だのセキュリティだのうるさくなかった平和な時代だったため、普通にフルネームでメール交換したりすることが多かった時代でした。

出会い系サイトで知り合った女の子、確か、僕の1つ下の短大生だったと思う。学校のメールアドレスでしかも本名丸出しでメールしてきました。その子の名字が僕の高校の時の同級生と同じ名字で、またそれが比較的珍しい名字だったため一瞬イヤな予感がしました。そして、メール交換をしていく中でかなり近所に住んでいることが分かり、これは本当にもしかするって思い始めました。

別の友達にその同級生に妹がいないか尋ねたところ、1歳下に妹がいることが分かり、名前も一致したのでした。もちろん、それ以降、この子にメールすることなはありませんでした。

その同級生とは特に親しくなかったのですが、親しかろうが親しくなかろうが、妹とどうにかなるのは、僕としてはどうも気まずいですね・・・。

その②「小学校の同級生」

2008年、某出会い系サイトで知り合った同年齢の子。僕の住んでいるところの隣の市に住んでいる子でした。

メール交換をしていくうちに、子供のころは、僕の家からかなり近いところに住んでいたことが分かりました。これはこれは、と思い、小学校の卒業アルバムを引っ張り出してみました。下の名前しか聞いていなかったので、とりあえず下の名前で調べてみると、同学年にその名前の子が2人いました。

ちなみに、一人は、僕が小学生の時に好きだった同級生でした。まあ、もし、この子が、好きだった子の方だったとしても、名前も住所も偽名で教えててしまっているし会えないのですが・・・。

少々がっかりしながらも、とにかく、この子が、卒業アルバムでヒットしたどちらかであることは間違いないのでメールをやめるにしてもそこまでは突き止めたい。採れる策としては、名字を聞き出すか、もう少し詳細の住所を聞き出すかですが、名字を聞き出す方が簡単だろうと判断し、とりあえず、親しくなるためにメール交換を続けて、ついに名字を聞き出すことができました。

好だった子じゃない方の子でした・・・・。まあ、どうせ会う気もないし、どっちでも良かったんですけどね。

その③「職場の同僚」

2013年、某SNSで知り合った女の子。26歳のプログラマー。同業者だけに、システム開発の話で盛り上がりました。知り合って間もない頃は、プライバシーがある細かいことは聞かないので暗黙のルールのようなものがあり、たとえば、名字なんかもその一つに該当するだろうと思いますが、お互いの勤務先なんかも当然聞くことはありませんでした。

しかし、メール交換していくうちにどの辺りで仕事をしているかを話していると、かなり近くで働いていることが分かりました。この時うかつにも僕は、正直に勤務先の所在地を答えてしまっていたのですが、まあ大丈夫！この辺りはオフィス街です。IT企業だけでも大小合わせて星の数ほどあります。で、勤務先の話はこの程度で終わつたのだが、この子のSNSのプロフィールのページをよく見ると、オフィス内で撮ったらしき女5人の集合写真がアップされているではないですか！しかも、見たことのある顔ばかり。そこには、ウチの社員もいれば、派遣会社から派遣されてやってきている子もいました。僕は、結局その中の誰をメール交換しているのかまでは突き止めることはできませんでした。もちろん、ここでメール終了。社内でうかつにメアドを教えることもできなくなってしまったのでアドレスを変えました。



出会い系ざんまい！

おわりに

まずは、最後までお読みいただき誠にありがとうございました。

「出会い系サイト」は、世間一般ではまだまだ危険なサイト・胡散臭いサービス等といった印象が根強くあり、今までなかなか文化的な観点での整理がされずにいました。

しかし、日本における晩婚化、少子化、男性の草食化が危惧される現代において、「出会い系サイト」の持つ役割は非常に大きく、今後ますます発展行くべき文化であると考えます。

そのために超えるべきハードルは高く、たくさんあります、人々が「出会い系サイト」というものは、人と人との出会いのきっかけがインターネットになっただけであって、終着点はリアルな出会いと何も変わらないことを理解し、肝に銘じていれば、出会い系サイトの未来は明るいものになると考えます。

例えば、テレビゲームを例に取ると、昔はただの子供のおもちゃとしての扱いでしかなく、子供の教育に良くないだとか、遊びすぎると頭が悪くなるだとか言われ続けて、芸術的・文化的・学術的な観点での評価はされてきませんでした。

しかし今では、テレビゲームの歴史、ゲームの内容、ゲームの持つ芸術性、ゲーム制作技術、ビジネスの手法な

ど様々な観点から書かれた書籍も多数出版され、とある大学はゲームのミュージアムを作るほどの地位になりました。

このようにいすれば、「出会い系サイト」も歴史的な意義や、人類に対する功績が評価されていくことを願ってやみません。

出会い系ざんまい！

2016年8月 初版 発行
2022年8月 第2版 発行

著者 「出会い系ざんまい！」管理事務局
発行者 「出会い系ざんまい！」管理事務局

お問い合わせ先 info@deaiz.info

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部または全部について、「出会い系ざんまい！」管理事務局から文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。